

事例 27

タイトル:「ご飯を炊かなくては」と心配するAさんの夜間不眠について

・ <事例の状況>

Aさんは不眠気味であると思われる。生活のリズムを掴もうと2週間センター方式のD-4(24時間生活変化シート)をつけてみた。しかし、何らかのリズムは掴めず一日の中でも良い状態、悪い状態がバラバラなように思われる。19時頃、「寢床を用意しましたよ。」「有り難い。」「朝起こしに来ますね。」「頼んだよ。」と言いながら入眠するが、22時頃になると、「どーれよいしょ。」とカーテンを開けて起きてくる。休んでもらえるように添い寝などするが、「夜でしょう、知ってるよ。」とややいらだった口調が返ってくる。そのまま臥床するが眠らず。朝食後にホールでうとうとし始める。「横になりましょう。」と声をかけると、ぱっと目が覚めてしまうようで、臥床することはない。椅子に座ってそのまま居眠りをする。「ご飯を炊かなくては。」「あの子たちまだ食べてないでしょう。」という言葉がよく聞かれている。

・ <この事例で課題と感じている点>

いつも日中うとうと居眠りをしている。夜間によく寝て、休んでもらえたらと思うが、なかなかリズムが掴めないでいる。不眠時は足元が不安定で、転倒のリスクが高くなるように思われそのことも心配である。

・ <キーワード>

不眠。 ご飯を炊かなくては。 家族の世話をしたい。 転倒。

・ <事例概要>

【年齢】 90歳代半ば

【性別】 女性

【職歴】 専業主婦

【家族構成】 入居前は長男と孫と同居していた

【認知機能】 HDS-R 2点

【要介護状態区分】 要介護3

【認知症高齢者の日常生活自立度】

【既往歴】 乳ガン(右胸手術) ポーエン病 卵巣の摘出手術

【現病】 認知症

【服用薬】 セロクエル・マグミット

【コミュニケーション能力】 やや難聴のためもあってか、一方的に話をする傾向にある。

【性格・気質】 温厚で人付き合いもよい。 社交的。

【ADL】 杖歩行で足どりが不安定な時は付き添う。車椅子を使用することもある。

食事は自立。排泄は尿・便意がほぼあるが濡れていることもある。入浴・着脱は一部介助。

【障害老人自立度】 A1

【生きがい・趣味】 旅行 パチンコ 和・洋裁など

- 【生活歴】 農業を営んでいた。永く専業主婦として家庭を切り盛りしていた。子供は多数。
- 【人間関係】 たまに、施設の他の利用者の方を亡くなった夫と思いこみ、気遣いをすることあり。
- 【本人の意向】 家のこと（ご飯や学校など）が心配。
- 【事例の発生場所】 特別養護老人ホーム